歴史教育用語の統計分析と基礎データ

2014年7月

高等学校歴史教育研究会

高等学校歴史教育研究会

代表　油井大三郎（東京女子大学特任教授）

小川　幸司（長野県高等学校教員）

木村　茂光（帝京大学文学部教授・日本学術会議会員（史学委員会））

君島　和彦（東京学芸大学名誉教授）

戸川　　点（町田高校定時制教員）

故鳥越泰彦（麻布学園教員）

中村　　薫（大阪大学招聘教員）

桃木　至朗（大阪大学文学研究科教授・大阪大学歴史教育研究会代表）

安井　　崇（東京学芸大学附属高等学校教諭）

吉嶺　茂樹（北海道有朋高等学校（通信課程）教諭）

目　　次

Ⅰ．はじめに …… 1

Ⅱ．本基礎データの作成過程 …… 1

Ⅲ．歴史用語の統計分析解説（統計資料編） …… 5

１．高等学校・世界史用語の動向 …… 5

統計（世界史）　表１－ⅰ、表１－ⅱ、表１－ⅲ、表１－ⅳ、表１－ⅴ、 …… 9
表１－ⅵ、表１－ⅶ－a、表１－ⅶ－b、表１－ⅷ、表１－ⅸ、
表１－ⅹ

２．高等学校・日本史用語の動向 …… 13

統計（日本史）　表２－ⅰ、表２－ⅱ、表２－ⅲ－a、表２－ⅲ－b、 …… 17
表２－ⅳ－a、表２－ⅳ－b、表２－ⅴ－a、表２－ⅴ－b、
表２－ⅵ、表２－ⅶ、表２－ⅷ

Ⅲ．歴史用語基礎データ

１．世界史用語基礎データ

２．日本史用語基礎データ

歴史教育用語の統計分析と基礎データ

Ⅰ．はじめに

この資料は、高等学校における歴史教育改革を推進するために、2012 年 10 月に三菱財団人文科学助成をえて発足した高等学校歴史教育研究会が作成したものである。高等学校の歴史教科書では改訂の度に収録用語が膨張している傾向があり、それが歴史教育を用語の暗記中心に追い込み、生徒たちに歴史を学ぶ楽しさを伝えたり、思考力育成の授業を導入したりするのを困難にさせている。このような現状を改善する方策を検討するには、まず小中学校と高等学校の接続や高等学校と大学の接続の中で高等学校における歴史用語の在り方を検討する必要があると考え、小中高の歴史教科書や大学入試、大学の教養課程歴史教科書における歴史用語の分布状況を検証する基礎的なデータの収集に努力した結果がこの資料である。また、この基礎データに基づいて高等学校における歴史用語の統計分析も収録した。このような小中高大の歴史教育用語を系統的に検討したデータの作成はたぶん日本では初めての試みだと自負するが、ぜひ多くの方々に活用していただき、今後の各段階における歴史教育の改善に役立てていただきたいと願っている。

Ⅱ．本基礎データの作成過程

本基礎データは、大学入試における中心的科目である世界史 B と日本史 B 教科書に収録されている歴史用語を中心に作成した。そこで、世界史と日本史に分けて、それぞれのデータ作成過程を説明しておきたい。なお、本基礎データは電子情報 CD 版と印刷版の 2 種類を作成したが、基礎データ部分のページ数が膨大になるため、印刷版では報告書と統計分析部分だけとし、基礎データは CD 版だけに収録することとした。世界史と日本史の基礎データを参照される場合は CD 版か、世界史研究所の HP に収録されているデータをご覧いただきたい。

世界史の場合

① 高等学校の世界史 B 教科書の用語収録状況については、山川出版社の『世界史 B 用語集改訂版』（2012 年、第 1 刷第 5 版）の電子データを山川出版社のご厚意で使用させていただいた。お蔭で作業を大変効率的に進めることができ、感謝している。この『用語集』は 2004 年度使用の高等学校世界史 B 教科書 11 種の用語を基礎に各教科書用語の収録頻度を分析しており、頻度 11 はすべての教科書に収録されている用語となる。このデータを基に用語の地域・時代・項目の種類の区分を独自に分析した。なお、現在は 2012 年度か 2013 年度検定の教科書が使用されているが、その収録用語を分析した新しい用語集はこの基礎データの作成時点では未刊であるので、用語収録頻度分析は 2004 年度使用の教科書で分析している点を注意していただきたい。

② 高等学校の世界史 A 教科書の用語と B 教科書の用語との比較を行うために、2012 年度検訂の世界史 A 教科書５種（山川『現代の世界史 A』、東京書籍『世界史 A』、帝国書院『明解世界史 A』、実教出版『世界史 A』、第一学習社『世界史 A』）について収録用語を各教科書の索引から集計した。集計作業は東京女子大学の大学院生の皆さんのご協力をえた。この場合、B 教科書は 2004 年度使用のものであり、発行年度にズレがある点を注意する必要がある。

③ 高等学校の世界史 B 教科書でゴシックが付されている用語を 2012 年と 2013 年検定教科書６冊（山川『詳説世界史 B』、山川『高校世界史 B』、東京書籍『世界史 B』、東京書籍『新選世界史 B』、帝国書院『新詳世界史 B』、第一学習社『世界史 B』）から独自に収集した。

④ 小学校の社会科（歴史分野）の教科書の場合は、用語集は刊行されていないので、５冊の教科書（東京書籍、日本文教２、教育出版、光村）に収録されている用語を中村薫氏が集計してくださったものを世界史と日本史に分けて収録させていただいた。

⑤ 中学校の社会科（歴史分野）の場合は、吉野教育図書の『歴史基本用語集』（2012 年、第 10 訂新版）を利用して用語の分布を世界史と日本史に分けて収録した。

⑥ 大学入試センター試験の出題用語については、実教出版の『必携世界史用語』（2011 年、第４訂４刷）が過去 19 年間の本試験・追試験で出題された 37 回分の用語を収録しているのでそれを利用した。

⑦ 大学の教養課程の世界史用語に関しては、大阪大学歴史教育研究会編『市民のための世界史』（大阪大学出版会、2014 年）に収録されている用語のデータを桃木至朗氏のご厚意で提供していただいた。

⑧ 高等学校の世界史 B 教科書の用語を 2000 語程度に限定する本研究会の試案については、小川幸司氏と故鳥越泰彦氏が選択基準を明記しつつ作成してくださったものに網掛をつけて示した。その基準の詳しい説明については報告書を参照していただきたい。

⑨ 全体の基礎データの整備や統計データの作成については小林祐門氏に大変お世話になった。記して感謝する次第である。なお、統計データの分析解説は油井が担当した。

日本史の場合

① 高等学校の日本史 B 教科書の用語収録状況については、山川出版社の『日本史 B 用語集改訂版』（2012 年第４版）の電子データを山川出版社のご厚意により使用させていただいた。この『用語集』は 2008 年度使用の高等学校日本史 B 教科書 11 種の用語を基礎に各教科書用語の収録頻度を分析しており、頻度 11 はすべての教科書に収録されている用語となる。なお、『日本史Ｂ用語集』には日本史Ａの用語も収録されている。このデータを基に用語の項目の種類、国・地域の区分を独自に分析した。なお、現在は 2012 年度検定の教科書が使用されているが、その収録用語を分析した新しい用語集はこの基礎データの作成時点では未刊であるので、用語収録頻度の分析は 2008 年度使用の教科書で分析している点に注意していただきたい。

② 高等学校の日本史 A 教科書の用語と B 教科書の用語との比較を行うために、2012 年度検定の日本史 A 教科書４種（山川『現代の日本史 A』、東京書籍『日本史 A』、実教出版『高校日本史 A』、第一学習社『日本史 A』）について収録用語を各教科書の索引から集計した。集計作業

は東京女子大学の大学院生のみなさんのご協力をえた。この場合、B 教科書は 2008 年使用のものであり、A教科書は 2013 年度使用と発行年度にズレがある点に注意する必要がある。

③ 高等学校の日本史B教科書でゴシックが付されている用語を 2003 年、2007 年、2012 年度検定教科書６種から独自に収録した。その６種とは、山川出版社『詳説日本史 B』(2012 年検定、基礎データでは山川①と表記)、東京書籍『新選日本史 B』(2003 年検定)、山川出版社『高校日本史改訂版』(2007 年検定、山川②と表記)、実教出版『高校日本史 B』(2007 年検定、実教①と表記)、実教出版『新訂版日本史 B』(2007 年検定、実教②と表記)、清水書院『高等学校日本史 B 改訂版』(2007 年検定）である。日本史 B の場合、2012 年検定教科書で統一できなかった点に注意してほしい。

④ 小学校社会科（歴史分野）の教科書の場合は、用語集が刊行されていないので、５種の教科書に収録されている用語を中村薫氏が集計してくださったものを世界史と日本史に分けて収録させていただいた。その 5 種とは、東京書籍『新しい社会』6 上、教育出版『小学社会』６上、光村図書『社会』６、日本文教出版『小学社会』6 年上（日文①と表記)、日本文教出版『小学生の社会』６上（日文②と表記）である。

⑤ 中学校社会科（歴史分野）の場合は、吉野教育図書の『歴史基本用語集』(2012 年、第 10 訂新版）を利用して用語の分布を世界史と日本史に分けて収録した。その際、基礎データの中では８社の教科書すべてに収録されている用語を③、７－４社に収録を②、３－１社に収録を①と表記した。

⑥ 大学入試センター試験の出題用語については、実教出版の『必携日本史用語集』(2012 年第４訂４刷）が過去 19 年間の本試験・追試験で出題された 37 回分の用語を収録しているので、それを利用した。

⑦ 高等学校の日本史 B 教科書の用語を 2000 語程度に限定する当研究会の試案については、戸川点氏と安井崇氏が作成してくださったものに網掛をつけて示した。その選択基準の詳しい説明については下記の限定方針を参照していただきたい。

⑧ 全体の基礎データの調整や統計データの作成については団藤充己氏に大変お世話になった。記して感謝する次第である。なお、統計データの分析解説は油井が担当した。

日本史用語の限定方針

１．本リストは山川出版社『日本史Ｂ用語集』に採られている用語および用語頻度をもとに作成したものである。

２．種別欄に項目とあるものは同用語集で項目として立項されていることを示す。同欄に羅列とあるものは項目語の説明の後に関連用語として羅列してある語を示す。

３．Ｂ頻度の欄は日本史Ｂ教科書のうち何社の教科書に記述されているか、その頻度を示す。Ａ頻度欄は同じく日本史Ａ教科書における頻度を示す。

４．限定案に★印があるものが今回我々が限定した学ぶべき日本史用語である。

５．理由・コメント欄は限定作業を行った際のコメントである。

６．頻度が高くてもあえて「歴史用語」と認識する必要がないと思われるものは除外する。

リストに「一般用語」などと注記したものはこれにあたる。

７．文章であまり無理をせず説明できそうなものは極力リストから除外する。
リストに「説明の工夫」と注記したものはこれにあたる。

８．概説の中で簡潔な文章で説明するのは無理と思われる用語は除外する。

９．理由コメント欄に用語限定とあるものは頻度は高いが用語数を限定し減らすために削除すべきと判断したことを示す。

10. 文化史はある時代の文化の特徴を説明しやすいと思われる特定分野に絞り、１時代を代表するものを１作者につき１作品にしぼる。
前近代史は仏教関係、近現代史は文学、ジャーナリズム関係を残したことが多い。

11. 近現代史の首相については氏名のみ残し、「第〇次〇〇内閣」等の語は除外した。なお、これらの語は使わないと実際には文章が書きにくいかもしれない。ただし、「〇〇内閣は〇〇法を定めた」式の記述の列挙は、暗記主体の授業を誘発しやすく、この種の用語に依存しない叙述のあり方が必要だと思われる。
また、内閣の特徴に基づくニックネームは残した場合もある。

12. 東アジアとの関係にかかわる語彙は現状では頻度が低くても採用する。

13. 女性史等も新規採用すべき用語があると考えられるが、教科書に体系的に女性の問題を取り込もうとすると基準を立てるのが難しく、結果的に今回のリストでは女性関係の用語は極端に少なくなってしまった。新規採用すべき用語があると考えられるが、結果的に今回のリストでは女性関係の用語は極端に少なくなっている。女性史関係学会からの積極的提言を期待したい。

14. 思考力育成型の教科書を目指すという意味では、本文、コラム、その他、教科書自体に一種のゾーニングをして、用語を規制する領域を明確にする必要がある。
歴史用語を濫用すべきでないのはどの領域でも共通だとしても、本文以外では一定程度固有名詞を使った方がよいかもしれない。

以上の検討は頻度 10 以上を主に検討対象とし、７以下の用語はほぼ採用していない。ただし上の 12 に関する語彙は頻度が低くても採用したものがある。

また言うまでもないことだが、ここで示した限定案は飽くまでも一つの案である。１万２千語を超える用語の検討は多大の労力を要するが、ぜひご検討いただき、ご批判、ご意見を賜りたいと思う。そうした作業を通してよりよい限定案が出来上がることを願っている。

Ⅲ．歴史用語の統計分析解説（統計資料編）

１．高等学校・世界史用語の動向

ｉ）主要な世界史 B 教科書の用語増大傾向

表１－ｉは、主要な高校世界史教科書の収録用語数の変遷を 1950 年代から 2010 年代まで比較したものである。会社によっては高校のタイプに応じて複数の教科書を出版している場合もあるし、索引の取り方にも精粗がありうるので単純な比較はできないが、大まかな趨勢は読み取ることができよう。つまり、1950 年代初めには 1500 語前後であったものが 2012 年度検定教科書の一番詳しいタイプでは 3700 語前後に膨張していることである。これには、歴史研究の新しい成果を教科書に盛り込んできたという要因もあるが、用語が多く詳しい教科書ほど大学受験に有利という評判があり、教科書会社間で収録用語の競争的増加に努めてきた結果という面もあるといわれている。

ⅱ）世界史 B 教科書用語の項目別頻度分布

表 1－ⅱは、『世界史 B 用語集』（山川出版社、2012 年）を基に用語の項目別の掲載頻度の分布をみたものである。項目としては、事件・人名・地名・制度・組織・文化・その他に区分した。この用語集が作成された時点では 11 種類の世界史 B 教科書が出版されており、掲載頻度 11 はすべての教科書に掲載、頻度 1 は 1 社にのみ掲載されていることを意味した。すべての教科書に掲載されていた用語の合計は 7039 語にも及んだが、頻度 10 以上に限定すると 1922 語程度（27.3%）、過半数の教科書に載っている場合は 6 以上で 4101 語（58.2%）となる。本研究会が提唱する 2000 語程度に歴史用語を限定する際には頻度 10 以上が一つの基準となる。それは 11 種類の教科書中、10 種の教科書が共通して掲載していることを意味しており、高校の歴史教育にとって必要不可欠な用語と認定できるであろう。ただし、その 2000 語の中で項目間のバランスが現行の頻度 10 以上のままでよいかどうかの検討は別途必要になるであろう。

ⅲ）世界史 B 教科書用語の地域別頻度分布

表１－ⅲは、世界史 B 用語を地域別に分類し、その頻度分布をみたものである。地域区分は左端から順番に、北東アジア・東南アジア・南アジア・中央アジア・中東・北アフリカ・南アフリカ・西欧・東欧・大洋州・北米・中南米・国際とした。この地域区分は、外務省の現行区分に従っているので歴史内地域区分とずれる面もある点に注意が必要である。総計は 11745 語となるので、重複語も含まれている。総計の地域別分布を見ると、全アジアが 41.2%（北東アジアと東南アジアの合計は 23.5%）、南北アフリカは 8.4%、東西欧は 40.4%、大洋州は 0.6%、南北アメリカが 6.8%、国際が 2.5%となる。現行では東アジアと東西欧の比重が極めて高いが、それを妥当とするかどうか議論があるところであろう。それ故、世界史の用語を 2000 語に限定する場合には、その地域バランスをどうとるかが一番の難問となる。因みに、現行の頻度 10 以上の地域バランスを集計すると、全アジアが 43.1%（東アジア合計が 23.6%）、南北アフリカ

が 9.4%、東西欧が 39.9%、大洋州が 0.4%、南北アメリカが 5.3%、国際が 1.8%となり、東西欧の比重は同じだが、全アジアや全東アジアの比重が若干高まるので、頻度 10 以上に絞る場合も地域バランスの検討が必要になるであろう。

ⅳ）2012 年－2013 年検定高校世界史 B の主要教科書の地域別頻度分布

表１－ⅳは、2012 年刊行の山川世界史用語集では集計されていなかった 2012 年－2013 年度検定の最新の世界史 B 教科書の中、採択率の高い６種の教科書に収録された用語の地域別頻度分布を示すものである。2013 年度の各教科書の採択状況を示す『内外教育』2013 年１月 22 日号によると、この６種で 77.3%を占めていた。この新教科書の場合、用語総数は重複も含めて、17702 語に増加している。これは前の検定に基づくすべての教科書の用語総数の 11745 語の 1.5 倍にもなっており、用語の膨張傾向に歯止めがかかっていないことを示している。

地域別の分布では全アジアが 41.5%で前回とほぼ同じ、全東アジアは 22.6%で若干前回より減少、南北アフリカは 8.8%でほぼ同じ、東西欧は 41.2%で若干増加、大洋州は 0.5%で若干減少、南北アメリカは 5.7%で若干減少、国際は 2.3%で若干減少していた。

ⅴ）2012－2013 年度検定高校世界史 B の主要教科書のゴシック用語分布

表１－ⅴは、2012－2013 年度検定の最新の主要世界史教科書でゴシックになっている語の分布をみたものである。これによると、６種の教科書で共通にゴシックにしているのは 456 語、５種共通が 447 語、４種共通が 386 語、３種共通が 440 語、２種共通が 537 語、１種のみが 1079 語で、６種の教科書のゴシック語総数は 3326 語であった。この総数は用語総数 17702 語の 18.8%に相当するが、ゴシックの付け方は各社さまざまで共通の基準があるようには思われない。それでも６種の教科書の半分にあたる３種のゴシック語の合計は 1721 語になるので、ゴシック語を参考にして 2000 語に絞ってゆくのも一つの方法と考えられる。

ⅵ）2012－2013 年度検定高校世界史 B の主要教科書のゴシック用語の時代別分布

表 1－ⅵは、新世界史 B の主要教科書におけるゴシック用語の時代別分布をみたものであるが、時代区分は山川用語集（2012 年版）の章別に対応させた。その結果、６種の教科書の用語の時代別合計は、先史が 102、古代が 1054、中世が 1960、近代が 2290、現代が 1633、合計 7039 となった。また、６種の教科書に共通する用語でみると、先史 42、古代 510、中世 971、近代 1085、現代 717、合計 3345 となった。このようにゴシック語を時代別にみても、かなり教科書によってばらつきがみられるが、ゴシック語は高校生が学ぶべき歴史教育の基本的重要語を示すものであることを考えると何らかの共通基準を確立し、共有性をもっと高めるべきものと考える。

ⅶ）世界史 B 教科書用語と世界史 A 教科書用語の相関

表１－ⅶ－ａは、世界史 B 教科書の用語収録頻度と 2012 年度検定世界史 A 教科書用語の相関を検討したものである。ここで注意すべきは、用語頻度は 2004 年度使用の世界史 B 教科書

11 冊で集計されているのに対して、世界史 A 教科書は 2012 年度検定のもの 5 冊を取り上げているので、A と B とでは刊行年次にズレが生じている点である。この統計分析を行った時点では 2012－2013 年度検定教科書の用語集は未刊行であったため、やむを得ない措置であったが、一定の傾向は読み取れると考える。

5 冊の A 教科書でとりあげられている用語の総数は 2227 語で、その内で B 教科書の過半数となる頻度 6 以上に出てくる用語が 86.7%を占めている。つまり、A 教科書の収録用語は B 教科書で収録頻度が高いものに集中しているという当然の結果を示しているのであるが、それでも 10 数%の A 教科書用語は収録頻度の低い B 教科書用語からなっており、A 教科書が必ずしも B 教科書の基礎編としての位置づけになっていないことを示している。つまり、A 教科書と B 教科書の関連づけに関してもっと原理的な議論の必要性が感じられる。

次に表 1－ⅶ－b は、2012－2013 年度検定世界史 B 主要教科書（6 冊）のゴシック用語頻度と A 教科書（5 冊）用語の相関を検討したものである。6 冊の世界史 B 教科書の中、半数の上位 4 冊でゴシックになっている用語は A 教科書収録の 2227 語中、1021 語で 45.8%を占めるにすぎない。つまり、B 教科書におけるゴシック語は A 教科書の用語との相関が低いということであり、A 教科書用語を基礎用語として B 教科書のゴシック用語にしているわけではないことを示している。つまり、ここでは A と B との関連とともに、B 教科書のゴシック用語の性格付けの曖昧さが浮き彫りになってくる。一説によると見開き 2 ページの中に一定数のゴシック用語があった方がよいという判断からゴシックが付されるという基準もあるというが、それではゴシック用語を重要用語とする一般的な理解と矛盾することにならないであろうか。

ⅷ）小中学校社会科（歴史分野）教科書の世界史用語と高校世界史 B ゴシック語の相関

表 1 －ⅷは、高校世界史 B のゴシック用語と小中学校社会科（歴史分野）の歴史用語の相関をみたものである。小学校で出てくる世界史用語は 5 年間の合計で 202 語、中学校では 420 語で、後に見る日本史では前者が 812 語、後者が 1498 語であるのと比較すると、世界史用語は小学校で日本史の 24.9%、中学では 28.0%にすぎず、小中学校の歴史教育が圧倒的に日本史中心であることが分かる。

ⅸ）小中学校社会科（歴史分野）教科書の世界史用語と高校世界史 B ゴシック語の時代別相関

表 1 － ⅸは、小中学校社会科（歴史分野）の 5 冊の教科書の世界史用語と高校世界史 B 教科書のゴッシク用語との相関を見たものであるが、表 1－ⅵで示されたように高校世界史 B 教科書の主要 6 冊のゴッシック語の合計は 7039 語であるが、小学校で登場する世界史用語は 202 語のみであり、その時代別の構成は、先史 11、古代 10、中世 76、近代 38、現代 67 となり、中世と現代に多く集中している傾向がみられる。また、中学校社会科（歴史分野）の場合は、世界史用語が 416 語で、その時代別構成は、先史 12、古代 37、中世 52、近代 157、現代 158 となり、近現代の比重が高い傾向がみられる。これは近現代史に集中している高校世界史 A 教科書との接続を意識した結果とみられるが、いずれにせよ、小中高の 3 段階でどのように歴史知識や認識を段階的に積み上げてゆくのがよいのか、系統的な検討が必要と思われる。

x）　大学入試センター試験における世界史出題用語の変遷

表１－ｘは、実教出版社が出版している『必携世界史用語』2012 年に収録されている過去 19 年間のセンター試験（本試験と追試験の合計 37 回分）における出題用語の分布状況を示したものである。過去問とのダブりを避けたがる入試出題の傾向を反映して、共通して出題されている用語はむしろ少ない。10 回以上 24 回まで出題されている語は 55 語に過ぎず、５－９回が 388 語、１－４回が 2366 語となっている。それ故、出題頻度の高い用語を重要用語と認定することはできないが、むしろ 19 年間もセンター試験で出題された用語の合計数が 2809 語程度であることが示すように、センター試験の場合は些末な用語の暗記力を問う傾向は避けられているといえるであろう。

表１－ｉ　主要な高校世界史教科書の用語拡大傾向

	1950年代	1960年代		1970年代	1980年代		1990年代	2000年代	
山川出版社	世界史 1308 (1952年)	詳説世界史 2518 (1960年)	詳説世界史 3009 (1967年)	詳説世界史 2901 (1977年)	詳説世界史 3061 (1987年)		詳説世界史 3543 (1997年)	詳説世界史 3379 (2003年)	詳説世界史 3834 (2012年)
帝国書院	世界史 1473 (1959年)	高等世界史 2150 (1963年)		世界史 1872 (1972年)	世界史 1791 (1982年)		世界史 1920 (1999年)	新詳世界史B 3429 (2007年)	新詳世界史B 3443 (2012年)
実教出版	世界史 1687 (1955年)	—		世界史 1278 (1973年)	高校世界史 2538 (1983年)		世界史B 3112 (1993年)	世界史B 3616 (2003年)	世界史B 3767 (2012年)
東京書籍	—	—		世界史 2188 (1972年)	新選世界史 1651 (1984年)		新選世界史B 1275 (1997年)	新選世界史B 1354 (2006年)	世界史B 3789 (2012年)
第一学習社	—	—		世界史 2188 (1972年)	世界史 2792 (1982年)	改訂版 世界史 2138 (1989年)	—	改訂版 世界史B 1566 (2006年)	

表１－ii　世界史Ｂ教科書用語の項目別頻度分布

「頻度」×「項目」別集計								
頻度	事件	人名	地名	制度	組織	文化	その他	合計
11	190	182	80	215	304	130	10	1111
10	106	168	49	147	188	143	10	811
9	61	136	62	121	144	116	15	655
8	57	106	45	106	130	103	8	555
7	65	82	44	107	114	104	13	529
6	37	70	38	68	123	90	14	440
5	39	79	32	77	119	86	8	440
4	56	93	48	82	114	97	5	495
3	46	96	58	94	138	103	10	545
2	46	120	73	108	149	103	13	612
1	60	186	79	108	185	150	18	786
参考	3	17	0	4	11	6	0	41
○	17	0	0	1	1	0	0	19
合計	783(11.1%)	1335(19.0%)	608(8.6%)	1238(17.6%)	1720(24.4%)	1231(17.5%)	124(1.8%)	7039(100%)

表１－iii　世界史Ｂ教科書用語の地域別頻度分布

「頻度」×「地域」別集計														
頻度	北東亜	東南亜	南亜	中央亜	中東亜	北ア	南ア	西欧	東欧	大洋州	北米	中南米	国際	合計
11	370	127	113	124	205	139	56	390	360	10	84	21	44	2043
10	220	97	59	55	114	99	31	379	245	4	60	17	20	1400
9	146	65	42	39	84	47	20	301	184	3	49	12	21	1013
8	141	68	39	42	72	51	23	261	168	10	54	22	24	975
7	135	51	39	35	69	66	23	235	156	5	60	13	26	913
6	105	42	25	37	52	40	19	179	120	1	33	15	21	689
5	109	47	31	39	64	46	27	184	124	7	43	15	22	758
4	116	53	51	54	82	43	26	183	137	4	41	28	28	846
3	147	89	45	43	64	40	19	201	123	6	49	15	24	865
2	173	82	40	34	78	49	29	199	150	10	43	23	33	943
1	211	118	62	54	104	53	36	251	184	6	63	33	29	1204
参考	12	3	4	2	5	4	2	14	10	0	5	0	2	63
○	6	2	3	1	3	2	2	2	5	0	2	1	4	33
合計	1891	844	553	559	996	679	313	2779	1966	66	586	215	298	11745
合計	4843(41.2%)					992(8.4%)		4745(40.4%)		66(0.6%)	801(6.8%)		298(2.5%)	11745(100%)

表１－ⅳ　2012－2013 年度検定 高校世界史 B の主要教科書の地域別分布

「高校教科書会社別」×「地域」別集計														
会社別/地域	北東亜	東南亜	南亜	中央亜	中東亜	北ア	南ア	西欧	東欧	大洋州	北米	中南米	国際	合計
山川詳説	554	226	170	179	329	231	90	878	635	15	161	44	86	3598
山川高校	420	184	142	144	252	170	74	684	490	13	122	26	55	2776
東書世界史	555	262	167	162	307	215	83	810	562	19	140	53	83	3418
東書新選	292	135	88	81	159	118	43	392	263	6	62	17	45	1701
帝国新詳	501	199	165	165	291	201	87	763	573	16	151	52	80	3244
第一学習	473	205	133	148	262	179	73	744	504	14	140	37	53	2965
合計	2795	1211	865	879	1600	1114	450	4271	3027	83	776	229	402	17702
合計	7350(41.5%)					1564(8.8%)		7298(41.2%)		83(0.5%)	1005(5.7%)		402(2.3%)	17702(100%)
	4006(22.6%)													

表１－ⅴ　2012－2013 年度検定 高校世界史 B の主要教科書のゴシック語分

ゴシック頻度	山川詳説	山川高校	東書	東書新選	帝国新詳	第一学習	総数
6	456	456	456	456	456	456	456
5	434	411	382	227	386	395	447
4	343	275	277	102	261	286	386
3	336	212	253	67	241	211	440
2	250	125	250	53	228	168	537
1	216	73	321	51	231	187	1079
合計	2035	1552	1939	956	1803	1703	3345

総数とは各社が採用しているゴシック語頻度の総数のことであって合計とは異なる。
例えば、いずれかの5社の教科書が採用している頻度5のゴシック語の総数は447で、
そのうち山川詳説は頻度5の用語を434採用していることになる。

表１－ⅵ　2012－2013 年度検定 高校世界史 B の主要教科書におけるゴシック語の時代別分布

		先史	古代		中世						近代						現代				
		序章	一章	二章	三章	四章	五章	六章	七章	八章	九章	十章	十一章	十二章	十三章	十四章	十五章	十六章	十七章	補遺	合計
各社別ゴシック語頻度	山川詳説	23	217	139	161	46	82	197	11	107	99	123	92	124	77	124	217	123	73	0	2035
	山川高校	14	166	108	111	34	50	138	19	80	91	92	79	97	52	86	171	104	60	0	1552
	東書	26	166	157	177	39	73	179	20	146	114	109	68	141	63	112	194	85	70	0	1939
	東書新選	15	99	97	85	22	42	75	1	69	65	54	49	53	38	45	89	36	22	0	956
	帝国新詳	21	177	134	125	36	72	134	18	100	98	75	91	143	76	113	194	120	76	0	1803
	第一学習	16	161	115	134	33	69	138	0	102	100	94	78	152	61	96	166	100	87	1	1703
	総数	102	600	454	479	186	226	521	114	434	356	357	266	570	301	440	706	431	477	19	7039
共通分ゴシック語頻度	6	6	54	50	45	8	18	32	0	30	30	27	17	27	18	23	49	16	6	0	456
	5	2	52	36	30	8	24	37	0	24	23	19	31	36	12	31	41	27	14	0	447
	4	4	37	19	37	8	14	44	3	19	22	26	14	21	18	18	37	28	17	0	386
	3	7	38	23	29	11	14	41	6	25	29	28	20	27	14	27	51	30	20	0	440
	2	9	33	31	36	12	16	54	7	43	25	24	21	41	18	37	67	28	35	0	537
	1	14	74	63	66	33	30	77	25	67	47	54	42	121	49	56	97	79	84	1	1079
	合計	42	288	222	243	80	116	285	41	208	176	178	145	273	129	192	342	208	176	1	3345

各社別ゴシック語頻度の総数とは山川用語集の時代別に集計した用語総数である。
例えば、山川用語集では序章に用語が102あり、そのうち山川詳説の教科書は23採用していることになる。
同様に、用語集の序章にある102の用語のうち、6社すべてが採用している用語は6となる。

表１－vii－a　2004 年度使用世界史 B 教科書の用語集頻度と 2013 年度使用世界史 A 用語の相関

	5（A）	4（A）	3（A）	2（A）	1（A）	合計
11	294	158	112	117	130	811
10	55	59	79	93	163	449
9	16	24	39	65	125	269
8	8	15	24	46	93	186
7	4	9	21	25	68	127
6	3	2	7	18	59	89
5	0	3	6	15	53	77
4	0	2	9	15	51	77
3	0	1	2	11	36	50
2	0	1	2	7	43	53
1	0	0	0	4	32	36
○	1	0	0	1	1	3
合計	381	274	301	417	854	2227

表１－vii－b　2012－2013 年度検定世界史 B の主要教科書のゴシック用語と世界史 A 用語の相関

「ゴシック頻度(B教科書)×A教科書の用語」						
	5(A)	4(A)	3(A)	2(A)	1(A)	合計
6(B)	171	88	59	65	36	419
5(B)	113	64	56	37	72	342
4(B)	35	45	48	54	78	260
3(B)	24	32	39	63	100	258
2(B)	16	15	34	66	103	234
1(B)	13	16	35	79	182	325
A教科書のみ	9	14	30	53	283	389
合計	381	274	301	417	854	2227

表１－viii　高校世界史 B 教科書のゴシック用語頻度と小中学校教科書の歴史用語頻度の相関

		山川詳説	山川高校	東書	東書新選	帝国新詳	第一学習	総数
高校（ゴシック）	6	456	456	456	456	456	456	456
	5	434	411	382	227	386	395	447
	4	343	275	277	102	261	286	386
	3	336	212	253	67	241	211	440
	2	250	125	250	53	228	168	537
	1	216	73	321	51	231	187	1079
	合計	2035	1552	1939	956	1803	1703	3345
中学	③	157	137	136	115	155	139	216
	②	60	55	61	51	57	62	104
	①	61	53	53	41	64	57	100
	合計	278	245	250	207	276	258	420
小学	5	29	24	28	19	29	28	80
	4	9	7	11	5	9	4	17
	3	11	10	9	6	10	7	18
	2	10	7	4	4	8	5	27
	1	30	24	28	16	28	26	60
	合計	89	72	80	50	84	70	202

表１－ix　高校世界史Ｂ教科書のゴシック用語頻度と小中学校教科書の歴史用語頻度の時代別相関

		先史	古代		中世						近代						現代				
		序章	一章	二章	三章	四章	五章	六章	七章	八章	九章	十章	十一章	十二章	十三章	十四章	十五章	十六章	十七章	補遺	合計
高校（ゴシック）	山川詳説	23	217	139	161	46	82	197	11	107	99	123	92	124	77	124	217	123	73	0	2035
	山川高校	14	166	108	111	34	50	138	19	80	91	92	79	97	52	86	171	104	60	0	1552
	東書	26	166	157	177	39	73	179	20	146	114	109	68	141	63	112	194	85	70	0	1939
	東書新選	15	99	97	85	22	42	75	1	69	65	54	49	53	38	45	89	36	22	0	956
	帝国新詳	21	177	134	125	36	72	134	18	100	98	75	91	143	76	113	194	120	76	0	1803
	第一学習	16	161	115	134	33	69	138	0	102	100	94	78	152	61	96	166	100	87	1	1703
	総数	102	600	454	479	186	226	521	114	434	356	357	266	570	301	440	706	431	477	19	7039
各社共通分	6	6	54	50	45	8	18	32	0	30	30	27	17	27	18	23	49	16	6	0	456
	5	2	52	36	30	8	24	37	0	24	23	19	31	36	12	31	41	27	14	0	447
	4	4	37	19	37	8	14	44	3	19	22	26	14	21	18	18	37	28	17	0	386
	3	7	38	23	29	11	14	41	6	25	29	28	20	27	14	27	51	30	20	0	440
	2	9	33	31	36	12	16	54	7	43	25	24	21	41	18	37	67	28	35	0	537
	1	14	74	63	66	33	30	77	25	67	47	54	42	121	49	56	97	79	84	1	1079
	合計	42	288	222	243	80	116	285	41	208	176	178	145	273	129	192	342	208	176	1	3345
小学	5	1	2	0	12	1	0	0	5	25	4	3	0	0	10	3	10	4	0	0	80
	4	3	0	1	3	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	2	3	2	0	17
	3	0	0	0	0	4	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0	5	3	2	0	18
	2	1	1	1	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4	6	5	0	27
	1	6	0	5	10	2	0	0	1	2	1	0	5	1	4	2	14	6	1	0	60
	合計	11	3	7	30	8	0	0	7	31	5	3	5	1	16	8	35	22	10	0	202
中学	③	6	6	17	13	0	0	1	4	13	14	6	11	2	19	19	45	19	8	0	203
	②	4	3	2	9	0	0	1	0	1	12	8	4	7	5	6	18	14	9	0	103
	①	2	6	3	5	0	0	2	1	3	4	6	6	7	3	19	17	15	15	0	114
	合計	12	15	22	27	0	0	4	5	17	30	20	21	16	27	44	80	48	32	0	420

表１－x　高校世界史Ｂ教科書のゴシック用語頻度と大学入試センター試験の世界史出題用語の相関

		山川詳説	山川高校	東書	東書新選	帝国新詳	第一学習	総数
高校（ゴシック）	6	456	456	456	456	456	456	456
	5	434	411	382	227	386	395	447
	4	343	275	277	102	261	286	386
	3	336	212	253	67	241	211	440
	2	250	125	250	53	228	168	537
	1	216	73	321	51	231	187	1079
	合計	2035	1552	1939	956	1803	1703	3345
センター試験	24	1	1	1	1	1	1	1
	23	1	1	1	1	1	1	1
	22	1	1	0	1	1	0	1
	21	1	1	0	0	0	0	1
	19	1	1	1	1	1	1	1
	18	2	2	2	2	2	2	3
	17	2	1	2	2	2	2	2
	16	2	2	2	2	2	2	2
	15	1	1	2	2	2	1	2
	14	6	4	5	6	5	6	6
	13	8	8	9	7	9	9	9
	12	9	7	9	8	9	8	10
	11	5	4	5	3	4	5	5
	10	10	11	10	10	10	10	11
	9	18	17	16	15	16	16	21
	8	28	25	27	20	30	27	35
	7	55	50	56	44	51	49	70
	6	68	58	66	47	60	63	94
	5	139	108	123	81	122	108	168
	4	195	181	179	115	169	178	296
	3	300	244	268	156	243	270	449
	2	319	253	307	151	277	283	619
	1	341	236	347	133	279	292	1002
	合計	1513	1217	1438	808	1296	1334	2809

２．高等学校・日本史用語の動向

ⅰ）主要な日本史 B 教科書の収録用語数の増大傾向

表 2－ⅰは、1950 年代から 2010 年代までの主要な日本史教科書における収録用語の変遷を索引から計算したものである。世界史と同様、索引の取り方は出版社によって精粗があるし、教科書も進学用と非進学用では収録用語の数に差がみられるので、単純な比較はできないが、大体の傾向は読み取ることができる。それは、1950 年代には 1300 語程度であったものが、2012 年度検定のＢ教科書では 3500 前後と３倍近くに膨張していることであり、それは世界史と同様の傾向であった。それは、世界史教科書の場合と同様、新しい研究成果のとりこみという面もあるが、大学受験向きの教科書の場合、収録用語数が多いほど、受験に有利という評判があり、出版社間で収録用語の競争的増加に努めてきた結果という面もあるといわれている。ただし、用語数を 2000 年代でも 2000 語前後に限定している出版社もあり、タイプが二分化している傾向も読み取れる。

ⅱ）日本史 B 教科書用語の項目別頻度分布

表 2－ⅱは、山川出版社の『日本史 B 用語集』（2012 年刊）により、2008 年度使用の日本史 B 教科書に収録された用語の項目別の分布を集計したものである。項目としては、作品名・事件・書名・人名・組織・制度（政治・社会・経済）・地名・物名・その他に区分した。頻度としては 11 冊の教科書のすべてに収録されている場合は 11 となり、１冊にしか収録されていない場合は１となる。その結果、日本史 B 教科書に収録されている用語の総数は 11884 語となる。その中で頻度 10 以上は 2294 語で 19.3%と比重が低い。対象とした教科書の過半数となる６以上をとっても、4941 語で 41.5%にしかならない。世界史 B の場合は同じ 11 冊中、頻度 10 以上が 1922 語で 27.3%、６以上が 4101 語で 58.2%を占めていたので、日本史の場合は、教科書間の共通語が少なく、各社が収録用語の独自性を競っている傾向が強い、例えば、頻度１が 3230 語、27.1%、頻度２以下は 4652 語、39.1%にもなる。これより個性的な教科書つくりをめざしている結果かもしれないが、大学入試で頻度１や２の用語でも出題されてしまうと、使用している教科書による有利不利が強くでることになりかねない問題があることを示している。

項目別でみると、作品名 6.4%、事件 4.3、書名 6.9%、人名 18.5%、組織 8.8%、制度名 34.9%、地名 4.1%、物名 12.3%、その他 3.7%となるが、制度名が飛びぬけて大きな比重を占めていることが分かる。次いで人名や物名、作品名と書名の合計が高い比重を占めているが、それらが適切な比重であるのかどうか、検討が必要であろう。とくにインターネット時代の現在では用語の暗記よりも用語の相関や意味を考える能力の重要性が高まっているだけに、大幅な用語の削減が必要となっている。

ⅲ）日本史 B 教科書用語の地域別時代別分布

表 2－ⅲ－a は、日本史 B 教科書に収録された外国史に関する用語の章別分布であるが、全体の 11884 語中、1393 語が外国関係であり、11.7%しか外国史関係の用語は収録されていない

ことが分かる。その地域別構成をみると、北東アジアが 649 語で 46.6%を占め、古代から現代まで全時代的に登場するが、東西欧の場合は 257 語（18.4%）で近現代史に集中する。同じく北米の場合も 137 語（9.8%）、国際の場合も 230 語（16.5%）で近現代に集中する傾向を示している。このような地域分布のままで日本史のみの必修化が行われた場合、生徒たちの外国史認識が著しく偏ったものになることが憂慮される。

ⅳ）日本史 B 教科書用語の地域別・頻度別分布

表 2－ⅲ－b は、地域別と収録頻度別の相関を分析したものであるが、頻度 10 以上の場合、全体では 297 語（21.3%）、6 以上の場合、全体で 598 語（42.9%）となる。それを主要な地域別にみると、北東アジアは 10 以上で 152 語（東北アジア全体の 649 語中の 23.4%）、6 以上で 298 語（45.9%）。西欧は 10 以上で 34 語（21.5%）、6 以上で 74 語（46.8%）となる。北米は 10 以上で 22 語（16%）、6 以上で 51 語（37.2%）となる。国際は 10 以上で 59 語（25.6%）、6 以上で 105 語（45.7%）となる。それに対して東南アジアの場合、10 以上で 7 語（8.9%）、6 以上で 20 語（25.3%）となり、10 以上に用語を限定した場合、日本との関わりが薄い地域ほど除外されてしまう可能性が高くなる点の注意が必要であろう。これは日本史 B の場合、頻度１－３の用語への集中度が高く、地域分布でもその傾向がでているからであろう。

ⅴ）最近の高校日本史 B の主要教科書のゴシック用語と日本史 B 教科書用語収録頻度の相関

表 2－ⅳ－a は、2008 年使用日本史 B 教科書の用語収録頻度と 2003－2012 年検定日本史 B の主要教科書 6 種のゴシック用語の相関を検討したものである。『内外教育』2013 年 1 月 22 日号によると、この 6 種で採択率が 93.7%を占めるので大まかな傾向を読み取ることはできるだろう。また、用語収録頻度とゴシック語の分析対象の教科書の年度が異なるが、それは山川出版社の日本史 B 用語集が 2008 年度使用教科書に基づいて集計されているためであるが、大まかな傾向は読み取れるだろう。ゴシック語総計 3193 語中、頻度 10 以上の語は 1811 語（56.7%）、6 以上の語は 2805 語（87.4%）となり、頻度の高い語がゴシック語になる傾向が顕著である。日本史 B の場合頻度の低い語が各社の教科書に分散する傾向が著しいが、ゴシック語に関しては各社の教科書が共通して指定する比率が高いことが分かる。これは、日本史 B の場合、対象国が日本に限定されているため重要語の選定が結果的に共通する傾向が得やすいためであろう。

ⅵ）最近の高校日本史 B の主要教科書ゴシック語の時代別分布

表 2－ⅳ－b は、最近の高校日本史 B の主要教科書のゴシック語の時代別分布を検討したものである。日本史 B ゴシック用語の総数である 11358 語中、各社共通のゴシック語は全体で 3193 語（28.1%）となっている。受験向きか否かでゴシック語の数も変動しているが、だいたい各社 800－1800 語くらいの幅でゴシック語が選ばれていることが分かる。このゴシック語の最大値は 1800 語程度であるので、これを参考に用語の限定を進めるのも一案であろう。時代別の構成を各社共通のゴシック語でみてみると、原始古代は 468 語（16.7%）、中世は 615 語（19.3%）、近世は 751 語（23.5%）、近代は 541 語（16.9%）、現代は 670 語（21%）、合計 3193 語となり、

やや近世が多いものの、ほぼバランスがとれていることが分かる。

vii）最近の高校日本史Bの主要教科書のゴシック語とA教科書用語の相関

表2－ｖ－aは、最近の日本史Bの主要6種教科書のゴシック語とA教科書4種の用語の相関を分析したものである。A教科書の用語で6種のB教科書の半分（4種以上）でゴシック語にされているケースは512語に過ぎず、A教科書用語でもB教科書のゴシック語にないものが883語もあった。つまり、A教科書の用語がB教科書の基礎という性格が必ずしも明確ではなく、近現代に集中したA教科書と全時代をカバーするB教科書の関連づけをより明確にすることが必要であろう。

表2－ｖ－bは、最近の日本史B教科書のゴシック用語の収録頻度と2012年度検定の日本史A教科書用語の相関をみたものである。年次がずれているのは山川出版社の日本史B用語集が2008年度使用教科書をもとに頻度を明示しているためであるが、大まかな傾向を知ることはできるだろう。つまり、A教科書の3と4の場合は、B教科書のゴシック語収録頻度が高い方に集中しており、A用語がBの重要用語になっている率が高いことがうかがえる。他方、A教科書の1と2の場合は、B頻度が低い用語にもA用語が分散しており、A用語がBの基礎といった位置づけが必ずしも明確でないことがうかがえる。今後、A教科書用語とB教科書用語との関連、とくにB教科書のゴシック語との関連づけの検討が望まれる。

viii）小中学校社会科（歴史分野）教科書の日本史用語と高校日本史Bゴシック語の相関

表2－viは、最近の日本史B教科書のゴシック語と小中学校社会科（歴史分野）の日本史用語の相関を分析したものである。まず、小学校の5種の教科書の日本史用語総数は817語、中学校の3種の教科書の日本史用語総数は1502語、高校日本史Bの主要教科書6種のゴシック語総数は3193語であるので、ほぼ小学校の倍の用語を中学校で教え、中学校のほぼ倍の語を高校のゴシック語にしている傾向が読み取れる。つまり、日本史教育の場合は、小中学校社会科（歴史分野）が日本史中心に実施されているため、ある種の段階的な積み上げが行われていることが読み取れる。

ix）小中学校社会科（歴史分野）教科書の日本史用語と高校日本史Bゴシック語の時代別相関

表2－viiは、小中高の3段階で日本史教育の時代別の積み上げがどのようになされているか、を示すものである。章別構成でいうと、1－3章が原始・古代、4－5章が中世、6－8章が近世、9－10章が近代、11－13章が現代と区分できる。この時代区分に基づいて比重をみると、小学校の場合、原始古代が193語（23.8%）、中世が122語（15%）、近世が192語（23.6%）、近代が163語（20%）、現代が142語（17.5%）となる。中学では、原始古代が325語（21.7%）、中世が234語（15.6%）、近世が336語（22.4%）、近代が281語（18.8%）、現代が322語（21.5%）となる。このような構成を高校と比べると、高校は原始・古代が468語（16.7%）、中世が615語（19.3%）、近世が751語（23.5%）、近代が541語（16.9%）、現代が670語（21%）となる。

このように小中高の３段階でほぼ同じような時代別の比重で詳しくなる傾向があるが、生徒の間では日本史教育には重複が多いとの不満もあるというので、段階的に特定の時代を詳しく教えるような工夫もあってよいのではないだろうか。

ｘ）大学入試センター試験における日本史出題用語の変遷

表 2－ⅷは、大学入試センター試験の出題用語と最近の高校日本史 B の主要６種教科書の用語との関連をみたものである。センター試験の出題用語については、実教出版社の『必携日本史用語』2012 年に収録されている過去 19 年間のセンター試験（本試験と追試験の合計 37 回分）における出題用語に依拠している。世界史の場合と同様、過去問とのダブりを避けたがる入試出題の傾向を反映して、共通して出題される用語はむしろ少ない。10 回以上 24 回まで出題されている用語は 77 語に過ぎず、５－９回が 340 語、１－４回が 3109 語となっている。それ故、出題回数が多い用語を重要用語と認定することはできない。むしろ、過去 19 年間にセンター試験で出題された用語の合計数が 3526 語であるのに対して、高校日本史 B の用語総数が 11884 語であることが示すように、センター試験では些末な用語の出題は避けられていることが分かるであろう。

表２－ｉ　主要な日本史Ｂ教科書用語数の変遷（1950 年代―2010 年代）

	1950年代	1960年代	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	2010年代
山川出版社	日本史 1347(1951年)	詳説日本史 1985(1967年)	詳説日本史(新版) 2310(1977年)	詳説日本史(改訂版) 2533(1984年)	詳説日本史 3250(1993年)	詳説日本史 3100(2002年)	詳説日本史 3408(2012年)
清水書院		新編日本史 2248(1969年)	日本史新訂版 1886(1978年)	高等学校日本史 三訂版 2552(1989年)	詳解日本史B 改訂版 2680(1988年)	詳解日本史B 2251(2007年)	
東京書籍		日本史 1442(1964年)	日本史 1421(1973年)	新訂 日本史 2388(1989年)	新選日本史B 1839(1998年)	新選日本史B 1981(2003年)	
実教出版		高校日本史 1432(1968年)	高校日本史 1638(1979年)	日本史三訂版 2466(1988年)	高校日本史B 新訂版 2380(1988年)	高校日本史B 3724(2007年)	日本史B 3767(2012年)

表２－ii　日本史Ｂ教科書用語の項目別頻度分布

		作品名	事件	書名	人名	組織	制度				地名	物名	その他	合計	備考
							政治	社会	経済	合計					
頻度	11	68	106	62	340	118	405	144	41	590	76	149	34	1543	4941 (41.5%)
	10	44	44	38	157	64	169	82	23	274	33	69	28	751	
	9	40	34	41	148	82	180	78	19	277	24	68	22	736	
	8	54	37	50	150	58	136	60	24	220	25	75	10	679	
	7	38	30	44	105	60	110	80	20	210	31	93	29	640	
	6	47	32	41	93	42	109	69	21	199	19	90	29	592	
	5	41	17	47	103	57	118	78	26	222	28	86	30	631	2291 (19.4%)
	4	50	27	58	106	69	139(1)	106	20(1)	265(2)	32	87	52	746(2)	
	3	57(1)	30	59	138(5)	79(3)	170(3)	134(1)	28	332(4)	58	125(4)	36(1)	914(18)	
	2	105(4)	50(4)	90(7)	241(10)	122(4)	264(13)	195(10)	36(2)	495(25)	48(1)	223(6)	48(1)	1422(62)	4652 (39.1%)
	1	222(33)	101(12)	287(48)	623(108)	298(59)	576(73)	412(44)	74(11)	1062(128)	119(5)	401(35)	117(16)	3230(444)	
合計		766(38)	508(16)	817(55)	2204(123)	1049(66)	237(90)	1438(55)	332(14)	4146(159)	493(6)	1466(45)	435(18)	11884(526)	
比率		6.4	4.3	6.9	18.5	8.8	34.9				4.1	12.3	3.7	100	

表２－iii－a　日本史Ｂ教科書用語の地域別・時代別分布

	北東アジア	東南アジア	南アジア	中東アジア	南アフリカ	西欧	東欧	大洋州	北米	中南米	国際	合計
1章	86	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	88
2章	57	2	2	0	0	0	0	0	0	0	1	62
3章	19	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
4章	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
5章	44	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	45
6章	37	23	1	0	0	33	0	0	0	1	1	96
7章	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
8章	1	0	0	0	0	11(2)	9(3)	0	1	0	0	22(5)
9章	18(3)	0	2	0	0	21(5)	7(2)	0	17(2)	2	14(3)	81(13)
10章	133(9)	1(1)	1	0	0	32(2)	16	1	23(1)	0	15	223(13)
11章	33(2)	0	0	0	0	15(3)	29	1	11	1(1)	21(1)	111(7)
12章	140(10)	17(2)	3	0	0	29(2)	14(1)	0	24(4)	0	49(1)	276(20)
13章	55(8)	33(5)	3	19	2	16	24(6)	1	61(6)	0	128(12)	342(36)
合計	649(32)	79(8)	13	19	2	158(14)	99(12)	3	137(13)	4(1)	230(17)	1393(97)

表２－iii－b　日本史Ｂ教科書用語の地域別・頻度別分布

		北東アジア	東南アジア	南アジア	中東アジア	南アフリカ	西欧	東欧	大洋州	北米	中南米	国際	合計
頻度	11	109	5	0	2	0	22	9	1	19	0	43	210
	10	43	2	0	0	0	12	11	0	3	0	16	87
	9	48	2	0	0	0	12	3	0	8	0	17	90
	8	28	6	0	1	0	12	5	0	7	1	8	68
	7	35	4	2	2	0	4	7	0	8	0	8	70
	6	35	1	1	2	0	12	3	0	6	0	13	73
	5	30	3	2	1	0	10	4	1	8	0	9	68
	4	37	5	2	1	0	6	5	0	9	0	12	77
	3	44(2)	7	3	0	0	11(1)	9(1)	0	8	1	21(1)	104(5)
	2	66(7)	14(2)	1	3	1	14(2)	15(2)	0	18(3)	0	28(2)	160(18)
	1	174(23)	30(6)	2	7	1	43(11)	28(9)	1	43(10)	2(1)	55(14)	386(74)
合計		649(32)	79(8)	13	19	2	158(14)	99(12)	3	137(13)	4(1)	230(17)	1393(97)

※中央アジア・北アフリカに該当する単語はなかったため、項目には入れず。

表２－ⅳ－a　高校日本史Ｂ教科書の用語収録頻度とゴシック語の相関

頻度	各社合計(ゴシック)						合計
	6	5	4	3	2	1	
11	348	261	203	172	175	140	1299
10	13	59	81	118	104	137	512
9	1	8	51	72	103	172	407
8	1	2	11	28	66	153	261
7			3	19	58	125	205
6		2	2	7	24	86	121
5				4	19	82	105
4				2	13	75	90
3				1	15	66	82
2					3	62	65
1					3	43(3)	46(3)
合計	363	332	351	423	583	1141(3)	3193(3)

(※1)単語集で日本史Aのみに登場する単語については(　)で表した。

表２－ⅳ－b　最近の高校日本史Ｂの主要教科書ゴシック語の時代別分布

時代		原始古代時代			中世		近世			近代		現代			
		一章	二章	三章	四章	五章	六章	七章	八章	九章	十章	十一章	十二章	十三章	合計
高校(ゴシック)	山川①	95	139	89	142	149	162	138	147	139	142	70	89	123 (1)	1624 (1)
	東京	61	110	72	131	135	112	71	86	116	158	74 (1)	68	106	1300 (1)
	山川②	56	86	49	91	83	84	44	56	64	88	39	52	51	843
	実教①	61	174	95	150	162	166	88	127	86	135	65	96	97	1502
	実教②	97	192	107	214	211	180	113	148	128	165	82	108	141	1886
	清水	91	151	56	133	149	149	126	157	132	178 (1)	74	108	159	1663 (1)
	総数	671	1205	619	819	908	895	643	930	766	1310 (1)	749 (1)	776	1067 (1)	11358 (3)
各社共通分	6	16	39	21	42	40	32	24	23	31	34	21	19	21	363
	5	15	37	22	35	26	28	18	39	25	40	13	22	12	332
	4	15	27	23	38	30	45	30	37	33	24	13	13	23	351
	3	30	43	15	25	55	45	24	28	29	43	9	30	47	423
	2	36	54	28	57	60	60	39	39	33	57	25	34	61	583
	1	68	88	39	93	114	86	76	78	69	123 (1)	84 (1)	87	136 (1)	1141 (3)
	合計	180	288	148	290	325	296	211	244	220	321 (1)	165 (1)	205	300 (1)	3193 (3)

表２－ⅴ－a　最近の日本史Ｂ教科書のゴシック語とＡ教科書用語の相関

		日本史A(合計)				合計
		1	2	3	4	
日本史B	0	605	200	62	16	883
	1	174	117	70	22	383
	2	67	66	61	18	212
	3	39	31	80	32	182
	4	33	29	53	41	156
	5	26	24	51	55	156
	6	52	16	29	103	200
合計		996	483	406	287	

表２－ｖ－b　最近の日本史Ｂ教科書の用語収録頻度とＡ教科書用語の相関

		日本史A(合計)				合計
		1	2	3	4	
日本史B	1	111	19	1	0	131
	2	89	15	2	0	106
	3	74	17	1	2	94
	4	83	22	7	0	112
	5	71	30	8	2	111
	6	73	41	6	1	121
	7	76	39	20	3	138
	8	80	54	30	10	174
	9	104	57	56	14	231
	10	73	88	74	49	284
	11	162	101	201	206	670
合計		996	483	406	287	

表２－vi　小中学校社会科（歴史分野）の日本史用語と高校日本史Ｂゴシック用語の相関

		山川①	東京	山川②	実教①	実教②	清水	総数
高校（ゴシック）	6	363	363	363	363	363	363	363
	5	298	286	181	288	318	289	332
	4	265	217	113	255	296	258	351
	3	224	175	87	239	312	232	423
	2	194	132	63	206	329	242	583
	1	280 (1)	127 (1)	36	151	268	279 (1)	1141 (3)
	合計	1624 (1)	1300 (1)	843	1502	1886	1663 (1)	3193 (3)
中学	③	468	457	401	468	477	503	762
	②	163	169	99	164	183	186	390
	①	130	134	76	118	162	136	350
	合計	761	760	576	750	822	825	1502
小学	5	140	140	123	140	138	143	214
	4	30	25	29	24	28	34	68
	3	39	42	28	33	34	44	99
	2	51	44	32	51	56	52	129
	1	92	93	67	99	100	116	307
	合計	352	344	279	347	356	389	817

表２－vii　小中学校社会科（歴史分野）教科書の日本史用語と高校日本史Ｂゴシック語の時代別相関

時代		原始古代時代			中世		近世			近代		現代			
		一章	二章	三章	四章	五章	六章	七章	八章	九章	十章	十一章	十二章	十三章	合計
高校（ゴシック）	山川①	95	139	89	142	149	162	138	147	139	142	70	89	123 (1)	1624 (1)
	東京	61	110	72	131	135	112	71	86	116	158	74 (1)	68	106	1300 (1)
	山川②	56	86	49	91	83	84	44	56	64	88	39	52	51	843
	実教①	61	174	95	150	162	166	88	127	86	135	65	96	97	1502
	実教②	97	192	107	214	211	180	113	148	128	165	82	108	141	1886
	清水	91	151	56	133	149	149	126	157	132	178 (1)	74	108	159	1663 (1)
	総数	671	1205	619	819	908	895	643	930	766	1310 (1)	749 (1)	776	1067 (1)	11358 (3)
中学	③	65	98	28	71	67	94	40	45	68	63	32	41	50	762
	②	20	32	14	31	32	41	22	20	32	40	34	23 (1)	47 (1)	388 (2)
	①	26	25	17	15	18	25	23	26	24 (1)	54	25	23 (1)	47	348 (2)
	合計	111	155	59	117	117	160	85	91	124 (1)	157	91	87 (2)	144 (1)	1498 (4)
小学	5	16	26	9	20	20	33	3	14	29	25	5	8	6	214
	4	14	7	1	3	3	6	4	2	11	5	1	4	7	68
	3	5	4	4	12	9	10	8	3	14	6	4	6	14	99
	2	14	11	6	6	9	11	16	7	11	10	2	10	16	129
	1	32	32	12	15	25	32	27	16	26	26	10	19 (3)	30 (2)	302 (5)
	合計	81	80	32	56	66	92	58	42	91	72	22	47 (3)	73 (2)	812 (5)

表２－viii　大学入試センター試験における日本史出題用語の変遷

		山川①	東京	山川②	実教①	実教②	清水	総数
高校（ゴシック）	6	363	363	363	363	363	363	363
	5	298	286	181	288	318	289	332
	4	265	217	113	255	296	258	351
	3	224	175	87	239	312	232	423
	2	194	132	63	206	329	242	583
	1	280 (1)	127 (1)	36	151	268	279 (1)	1141 (3)
	合計	1624 (1)	1300 (1)	843	1502	1886	1663 (1)	3193 (3)
センター試験	26	2	1	2	1	1	2	2
	25	2	1	0	1	0	1	2
	24	0	0	0	0	0	1	1
	23	0	0	0	0	0	0	0
	22	1	0	0	0	0	1	1
	21	3	2	3	2	2	2	3
	20	3	3	2	3	3	2	4
	19	0	0	0	0	0	0	0
	18	1	1	0	0	1	1	2
	17	3	3	3	3	4	2	5
	16	3	1	3	2	2	3	5
	15	1	1	2	2	2	1	3
	14	2	1	2	2	2	2	2
	13	6	5	4	5	5	6	10
	12	10	10	11	9	11	10	16
	11	8	7	9	7	10	8	10
	10	10	6	8	8	10	9	11
	9	15	12	14	15	15	15	20
	8	25	20	19	23	24	22	34
	7	41	39	32	34	35	35	53
	6	60	50	41	52	57	53	80
	5	101	85	63	103	103	95	153
	4	168	144	107	151	186	162	311
	3	233	210	136	230	290	241	512
	2	319	266	166	308	400	329	847
	1	273	205	119	276	375	302	1439
	合計	1290	1073	746	1237	1538	1305	3526

歴史教育用語の統計分析と基礎データ

2014年7月1日　発行

編集発行者　高等学校歴史教育研究会
代表　油井 大三郎（yui@lab.twcu.ac.jp）
東京女子大学現代教養学部
〒167-8585　東京都杉並区善福寺2-6-1

印　　刷　株式会社　文伸